

## 「慰安婦像を再設置するのは約束違反ではないですか？」

平成 29 年 1 月 10 日

### ●チーム西田からの質問

慰安婦の像をもう一度設置するというのは、今までの日本政府との約束を破る行為だと思うのですが、西田先生はどのようにお考えですか？

### ●西田昌司の答え

朴槿恵政権の支持率は一時は 60 % を超えるほど高かったのですが、朴槿恵の側近が朴槿恵の知人の崔順実に機密情報を漏洩したという疑惑が発端となって一気に支持率が低下し、昨年 12 月 9 日には韓国国会で弾劾訴追案が可決され、朴槿恵の罷免を要求するデモが韓国国内で盛んに行われています。このような様子を見ていると、彼らは我々日本人とは随分と違った感覚を持っているな、と感じさせられます。韓国人は、一時は熱烈歓迎していた人に対して手の平を返すことを平気でしますし、これは朴槿恵に対してだけでなく我々日本人に対しても同様です。

1910 年に日本が大韓帝国（韓国）を併合しましたが、現在の韓国（大韓民国）人は日韓併合を「日本による植民地支配」と捉えていますし、反日感情を持った韓国人がたくさんいます。彼らからすると、歴史的にも文化的にも下と見なしていた日本に併合されてしまったのは非常に屈辱の記憶なのでしょう。しかし実際は、日本は戦争によって併合を断行したのではありませんし、きちんとした交渉によってなされたものです。にもかかわらず韓国人は過去の歴史についていつまでもねちねちと蒸し返してくるのですから、日本人の嫌韓感情が高まってしまうのも当然です。

日韓併合に至る歴史を振り返ってみると、日韓併合の必然性もよく理解で

きます。1894年の日清戦争当時、清は朝鮮を属領と見なしてしまいましたが、日本は朝鮮が清の属領のままでは日本にとって危険だと考え、清の支配から脱するよう働きかけていました。しかし清はいつまでも朝鮮を属領とする方針を変えなかったため、結局、日本と清の戦争にまで発展したのです。日本は陸戦・海戦ともに清に圧倒的に勝利して、1895年に日清両国は下関条約を結び、清は朝鮮の独立を認めました。

19世紀末、ロシアは不凍港を求めて東アジアに目を向け始めていました。シベリア鉄道の建設に着手したり、朝鮮半島に入って鉱山・鉄道敷設・租借地などの利権の獲得に必死となっていました。南下するロシアに日本は危機感を抱き、ロシアと同盟を結んで穏便に済ませようという意見があったものの、結局はロシアとの同盟ではなくイギリスと同盟を結んでロシアと戦う道を選びました。1904年、日本はロシアに国交断絶を通告して日露戦争が始まりましたが、国力の差を克服して日本はこの戦争に勝利し、1905年に結ばれたポーツマス条約で日本は朝鮮半島の主導権をロシアに認めさせるまでになったのです。

朝鮮は1897年に国号を李氏朝鮮から大韓帝国（韓国）に改めています。2つの戦争を経験した日本政府は、日本の安全保障のためには韓国の安定が必要だと考え、1910年に日本が韓国を併合しました。韓国の国内では、民族の独立を失うことへの激しい抵抗があった一方で、韓国にとって利益になるという判断から併合を希望する意見もまた多数あったのです。日本は併合中に朝鮮半島に巨大な投資をしてインフラを整備し、一気に近代化させました。日韓併合は、欧米列強がアジアにおいて行ったような植民地支配とは全く異なりますし、韓国人にとって大きなメリットもあったのです。

そうやって戦前は一つの国としてまとまっていた日本と韓国ですが、戦後に別の国になった瞬間から彼らは日本に対する敵意を剥き出し始め、今では韓国は反日を国是とするような国になっています。一昨年の暮れ、日韓両政府はいわゆる従軍慰安婦問題を決着させるという日韓合意をしました。日本政府が軍の関与や政府の責任を認め、韓国政府が新たに設立する元慰安婦支

援目的の財団に日本から 10 億円を拠出すると表明し、日韓双方がこれにて「最終的かつ不可逆的解決」とすることを確認したのです。しかし、それからたった 1 年後の今にまたぞろ慰安婦像を再設置するというのですから本当に呆れてしまいます（10 億円を日本に返して合意を破棄すれば良いといった韓国側の意見もあるようです）。韓国は近くて遠い国、というのが実感です。

韓国はこれまで日本に対して、過去の植民地支配やいわゆる従軍慰安婦問題についての謝罪を要求してきましたが、そもそも日本は植民地支配などしていませんし、いわゆる従軍慰安婦問題も朝日新聞がでっち上げた虚報から話が大きくなったのです。

いわゆる従軍慰安婦問題は、文筆家の吉田清治なる人物が 1983 年に「私の戦争犯罪——朝鮮人強制連行」という手記を出版して、韓国の済州島において 205 人の女性を慰安婦にするために強制連行したという衝撃の告白をしたのが始まりです。1989 年に吉田氏の著書が朝鮮語に翻訳され、それを受けて済州島の現地新聞が調査を行いました。吉田氏のいう済州島での慰安婦狩りは事実無根である、と報じています。それにも関わらず、朝日新聞は 1990 年代になっても吉田氏の証言やインタビューを掲載し続けたので、「日本軍が戦時中に朝鮮半島で慰安婦を強制連行し、戦場に送り込んだ」という誤解が日本と韓国で広まってしまいました。ところが、当の吉田氏本人が 1996 年の週刊新潮のインタビューで自らの証言がフィクションを含むものであることを認めています。しかし、その後も問題はこじれるばかりで、1997 年には日本の中学校の歴史教科書に慰安婦問題が記載されるまでになりました。

友人にはすり寄る半面、一度敵と見なすと一方的、感情的に相手を攻撃するのが韓国人の気質のように思います。韓国人に牙を剥けられて、多くの日本人は嫌な気持ちになって彼らを遠ざけますし、あるいは逆に彼らに対抗しようと敵意をあらわにする人もまた多いのです。彼らの振る舞いを見ていると、とても友人として信頼することはできないというのが率直なところでしょう。国を挙げての反日行為を世界に晒せば世界全体からも嫌われる結果

となることを彼らは気付くべきですし、そういった行為が彼らの値打ちを下げていることに気付いている韓国人も多くいらっしゃると思います。

今回の慰安婦像再設置の件に関しては韓国側に 100 %非がありますし、彼らには素直に、謙虚に、自らの振る舞いを省みていただきたく思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>